

## V49b すばる望遠鏡 定常シーイングモニターの設置

浦口史寛、高遠徳尚、宮下暁彦、臼田知史（国立天文台ハワイ）

国立天文台ハワイ観測所では、従来から行われているオートガイダーによるシーイング統計調査に加え、DIMMによるシーイングの定常モニタリングを2005年6月より開始した。定常シーイングモニターの設置の主旨は、すばる望遠鏡サイトのシーイングを測定し、ドームフラッシングの効果や望遠鏡振動や主鏡変形など望遠鏡光学系・機械系の星像への影響を把握することにある。

DIMMは、接地境界層の影響を最小限におさえるため、地上高12mのドームキャットウォークから出した1mの梁の先端に取り付けられている。そして耐候性および耐衝撃性をもつカバーがDIMMを保護し、これらの機器はドーム基部に設置したホストPCから遠隔制御される。このPCによりスケジュール管理や天候判断も含め自動運転が行われる。取得されたデータはリアルタイムで参照できるため、環境モニタとしても利用できる。

本年会では、システムの概要と運用開始後の測定結果を報告する。